

<株式会社エフエム東京 第 498 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：令和 5 年 5 月 9 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 11 階大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（6 名）

ロバート キャンベル 委員長	秋 元 康 委員
佐々木 俊尚 委員	松 田 紀 子 委員
山 口 真 由 委員	柴 崎 友 香 委員

◇欠席委員（0 名）

◇社側出席者（8 名）

唐島 夏生	代表取締役会長
黒坂 修	代表取締役社長
小川 聡	取締役
内藤 博志	執行役員編成制作局長
延江 浩	編成制作局ゼネラルプロデューサー
宮野 潤一	編成制作局次長 兼 編成部長
若杉 健太	編成制作局制作部長
原田 洋子	編成制作局報道・情報センター部長

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 内藤放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴（約 30 分）
特別番組『ドクター・キャピタルの“ヒット曲概論” with 山崎怜奈』
2023 年 5 月 7 日（日）19：00～19：55 放送のダイジェスト

《議事内容》

議題 1:最近の活動について

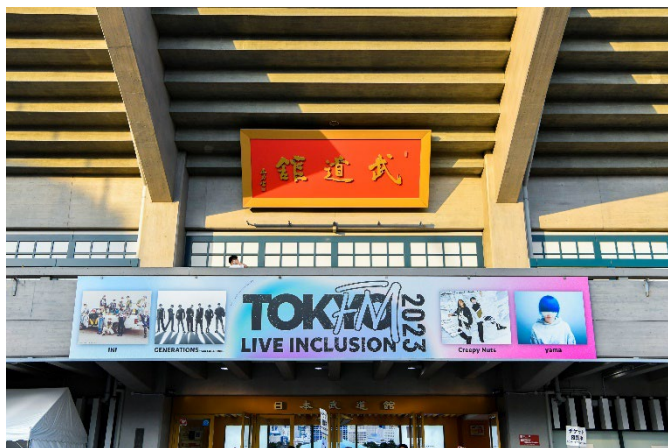
■ 『TOKYO FM LIVE INCLUSION2023』 開催

2023年5月1日(月)日本武道館にてライブイベント『TOKYO FM LIVE INCLUSION 2023』を開催いたしました。

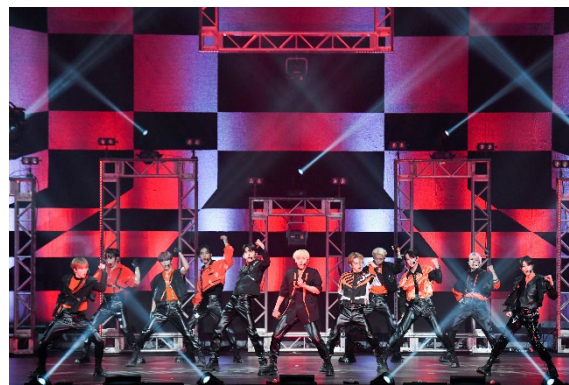
音楽性の異なるアーティスト、ファン同士で一体感を持って楽しむ”というコンセプトで、出演はレギュラー番組『From INI』が放送中のグローバルボーイズグループ INI、メンバーの小森隼が10代向けワイド番組『SCHOOL OF LOCK!』でこもり校長としてパーソナリティをつとめている7人組ダンス&ボーカルグループ GENERATIONS、人気ヒップホップ・ユニット Creepy Nuts、SNSを中心にネット上で注目を集める新世代シンガー yama の4組。会場は満員8,200人の来場で大盛況、オンラインでも4,500人が視聴。アーティスト同士がコラボステージをしたり、それぞれのファン同士と一緒に盛り上げ合ったりなど、一体感に包まれたライブとなりました。



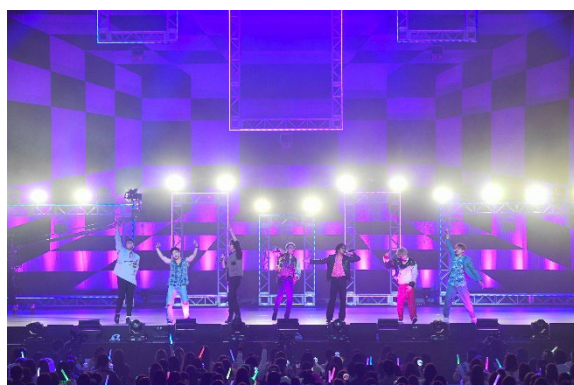
▲集合写真



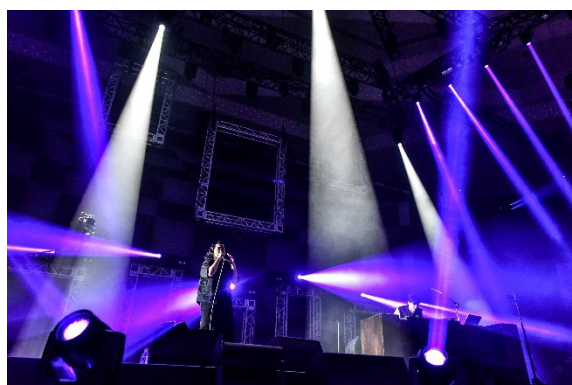
▲yama



▲INI



▲GENERATIONS



▲Creepy Nuts

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○素晴らしいイベントだと思う。「INCLUSION」という名称がとてもいい。多様性とか、SDGs とかっていうような題目的なものではなく、ファンが一緒になって一体感を作っていくっていう意味での「INCLUSION」は実体を伴う秀逸なネーミングだ。8,200 人も集客があったことはすごいことだと思うが、チケット価格はいくらだったのか。

■SS 席が 1 万 5,000 円、スタンドが 9,000 円、配信が 3,000 円。

○高価だ。それだけプレミアムということかもしれないが。

議題 2 : 番組試聴

【番組名】

特別番組『ドクター・キャピタルの“ヒット曲概論” with 山崎怜奈』

2023年5月7日(日) 19:00~19:55 放送のダイジェスト

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、5月7日(日)に放送した特別番組『ドクター・キャピタルの“ヒット曲概論” with 山崎怜奈』のダイジェストです。

平日午後のワイド番組『山崎怜奈の誰かに話したかったこと。』でお馴染みの山崎怜奈が、南カリフォルニア大学の音楽教授で、関西弁での邦楽解説 YouTube 動画が話題となっている音楽博士、ドクター・キャピタルをゲストに迎え、時代を創るヒット曲がどんな構造になっているのか、理論的に、わかりやすく解説・レクチャーを受け学びながら、ヒット曲の法則をお届けしました。今回は“メロディ”にフォーカスをあて、今の時代だから歓迎されるメロディを、緑黄色社会『Mela!』、優里『ドライフラワー』、Mrs. GREEN APPLE『ダンスホール』、Official 髭男dism『Subtitle』を例に挙げ、『前進』、『飛躍』、『解放』、『希望』、4つのキーワードに特化して分析しています。



◀左：ドクターキャピトル、右：山崎怜奈

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側意見）

○こんな分析の仕方もあるのかと、非常に驚き面白く拝聴した。私自身、音楽の素養がないのでこの分析がどこまで本質かということは分からないが、最近日本の音楽が海外でウケている。記憶しているに、最初に日本の音楽が海外で評判になったのは、3、4年前か、4、5年前か、J-POP ではなくて、シティ・ポップ。70年代の音楽が勝手に YouTube にアップされて 500 万も再生されたり、既に亡くなったアーティストのヒットソングが世界中でいろんな人にカバーされたり、70年代、80年代のシティ・ポップが海外でウケていると音楽的に分析した記事も多数あった。一方で、古いシティ・ポップだけではなく、最近だと日本のアニメ映画のヒットに伴って、若い日本のアーティストの楽曲が世界中で大ヒットして、軒並みチャート上位を占めるみたいな驚くべき出来事が起きていたり、純和風としか思えない楽曲まで Spotify のバイラルチャートとかで上位になっていたり、もしかしたら、そのことも日本のアニメ映画がアメリカや中国、韓国で大ヒットしていることと関係があるのかも知れないが。この番組の趣旨とも接点があるような気がして、もし続編があるなら次はそのあたりもぜひ聴いてみたいと思う。

○ジャパニーズポップスにこれだけ技巧的にいろいろなものが詰め込まれているというのは、転調とか表とか裏とか、専門的なことまでちゃんと理解できたかは分からないが、非常に興味深いと思った。また、これらのキーワードはジャパニーズポップスに特徴的なものかと思ったら、もっと普遍的なものでバッハなどにも共通するところがあると聴き、驚いた。さらに驚いたのは、これだけの分析があれば当然、制作側はそれを意識して理論的に制作していると思うが、作り手は自然に作っているとのこと。次回があるなら、次は制作者に話を聴いてみたい。

○山崎怜奈氏は、番組のホストとしてとても聴きやすい。

○大変面白く拝聴した。4つのキーワードで、4つの曲という構成も聴きやすかった。街頭インタビューなど、一般の人が好きなのはこの曲といったところから始まるのも、リスナーとのつながりや共感を得ることができて良かった。ラジオはテレビに比べてよりパーソナルな場面で聴くことが多く、その分、リスナー同士のつながりが生まれてくるのが面白いところだと思う。また、この番組を聴くと、次の日に誰かに話したくなる。というのも、音楽の説明をする言葉は難しく、いつも「なんか好き」としか言えないのだが、このように解説を聴いて、技術的な解説とまではいかないが、それでも音楽のキーワードや、こういうものだから感情が動くのか、ということが伝えやすくなった気がして、「明日誰かに話してみよう」という気持ちが湧いてくる番組だと感じた。

○この番組で、ドクター・キャピタル氏を初めて知ったが、どうして関西弁なのかが大変気になった。なぜか関西弁には謎の説得力があって「そうです」と言われるより「そうやねん」と言われると「そうなんかな?」と思ってしまう。親しみがあって、説得力があって、関西弁は意外と解説には向いているのではと気づいた。

○今まで自分が好きだったものに、そういう側面があったのかというのを発見できるのはとても素晴らしいこと。そして、時代や国や文化が違ってもそれを超えて普遍的に心に響くものがあるということも分かって、良い番組だと思った。また、制作者が意識して作っているわけではない、というのを聴いて、ものを作る側としては勇気づけられた。

○今回取り上げた 4 曲が比較的近いタイプのような曲で、ドクター・キャピタル氏は自身の動画でもっと幅広いジャンルを取り上げているようだったので、他のタイプの曲も聴いてみたいと思った。山崎怜奈氏の話し方も大変聴きやすくこの番組によく合っていた。

○ドクター・キャピタル氏の歌が大変上手くて驚いた。ギターも引けるのですっかり魅了された。

○ドクター・キャピタル氏の話は面白く、説得力があり、親近感もある。ホストである山崎怜奈氏との距離感もよく、この手の番組にありがちな説教臭さもなく、言葉が分からないということもなく、聴きやすかったのでぜひ続編も聴いてみたいと思った。

○この番組は企画が素晴らしく、企画勝ちだと感じた。山崎怜奈氏は相槌だけでなくもう少し突っ込めたら良かったと思う。彼女の得意分野である歴史などであればもっと突っ込んでトークできたのだと思うが、音楽なので分からないこともあるのだと思う、「そうなんです」 という相槌で物足りなかった。

○ドクター・キャピタル氏は大変面白い方だと思ったが、ディテールから入ってしまったことはもったいないと思った。専門的な話は面白いのだけれど、例えば同じような番組でいうと、テレビ番組に「関ジャム」というものがある、ヒット曲を専門家が分析していて、そこに関ジャニ∞という非常に分かりやすいキャラクターがいる。そのことでより視聴者が親近感を覚えるということがあって、そういう意味ではこの番組にはもう 1 人、いわゆるツッコミ役がいても良かったと思う。ヒット曲は、制作時には誰もそうだと考えていない。後にそれを分析した人たちが、あそこのフレーズがどうだこうだと批評すると、昔作曲家が言っていた。例えば、音楽大学の作曲科を出ると、理論から始まるのでヒット曲が生まれにくいというようなこと。当時のヒット曲のコード進行について、「まずこのコード進行はあ

りえない」のだと。理論ではあり得ないからヒットしたということが起きる。そういう意味ではドクター・キャピタル氏には日本のコード進行について聞いてみたかった。カノン進行とか、日本のヒットプロデューサーが好きな進行、いろいろな進行があるが、それが欧米とどう違うか、K-POP とどう違うのか。または B メロが変拍子になると気分転換できるとか。そういう全体像があった上で、今回のようなディテール論があったら面白かったと思う。

○街の声は、制作者が都合のいい言葉を拾っている可能性もあり、あまり必要だとは思わない。予定調和を助長してしまうこともある。むしろ、当人たちはどう思っているのかを入れてほしいと思った。この曲を分析しました、こうでした、では作った人がどう思ったのか聞いてみましょう、と。それは、TOKYO FM だったらできるアプローチだと思うので、「意識していましたか?」「分析を聞いてどう思いましたか?」というインタビューが入ったほうが、もしかしたら、制作者は全然違うことを意識して作っていたかも知れないし、面白い番組になったと思う。

○今更「ドライフラワー」ではなく、今週のチャートでランクインした曲はこうです、その中でドクター・キャピタル氏が特筆すべきことはなんですか?という聴き方で作ると面白いのではないかと思った。ただ、大変面白かったのでぜひやり続けてほしい。AuDee にもアーカイブを残した方がいい。

○キーワードで出ていた、前進。地方の講演会の題目で出てきそうな言葉で、前進・飛躍・解放・希望などは使わないほうがいいのでは、とも思った。

■大変参考になる意見を頂いた。次回の制作に向けて進めていきたい。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「ドライバーズインフォ」

5月27日(土) 5:55~6:00 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <https://www.tfm.co.jp/>